広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	英語における情報主語について
Author(s)	中村, 平治
Citation	ニダバ , 6 : 55 - 55
Issue Date	1977-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050977
Right	
Relation	

英語における情報主語について

中　村　平　治

動詞［＋伝達する］の主語は知的に高度な使命に拘わるから少なくとも基本的には［＋人間］のみが専有するとみてよい。しかし実際の統語表現の例を見回すと必ずしもそうとばかりいい切れない。特に英語の場合，日本語と対照的に，そうでない統語事例が数多くみうけられるのである。The headlines /The sign said…といった統語が日常の表現として好まれているのである。具象的な色彩の強い情報名詞つまり「見出し語」「立て札」に伝達者としての発言能力などあり得るのだろうか。格文法の見方を擁護すると，前置詞を介在させ具格（また位置格）に置き換え発言者としての［＋人間］を別に設定するであろう。しかし私はこの見方に賛同できない。論理性の足枷により最も大切にしておきたい主語と動詞の実質的な意味的統語関係が抹殺されることを恐れるからである。私はかかる主語名詞に対して英米人の思考形態では［＋人間］と同一視されていると見ることによって解決したい。勿論headlineのみを孤立的に取り出してこの同一視化を裏づけるのは唐突である。この見方への近づきとして「新聞・雑誌」などの持つ役割を考え合わすと便利であろう。これらは普遍的にも［＋人間］の活動が背後に認めやすいからである。この近づきから更に下位段階の「手紙・節・句・文」などを抱き合わせて考えると「見出し語」と発言動詞との統語関係が見やすいものになるであろう。発表ではかかる視点を基に英語独得の情報主語は何かを指摘し，伝達動詞といかなる意味的制約関係にあるのかを追った。結論的に次のことを得た。(i)「見出し語・漢字」などの［＋文字］素性名詞は say，announce などの発言動詞と統語関係をもちうる。(ii)［＋声］素性名詞は［＋人間］と同一視され意図的な ask，reply などの口頭的な発言動詞と統語関係をもちうる。(iii)「手紙・声」などの［＋内容］を表わす素性名詞は情報の伝達に参与する come，reach などの移動動詞と統語関係をもちうる。(iv)［＋文字］また［＋音］素性名詞は情報の伝達に参与する give，offer などの授受動詞と統語関係をもちうる。(v)［＋音］素性名詞は人為的な働きの強い steal，permit などと統語関係をもち結果的に情報の伝達と深く係わりのある使命を果しえる。(vi)［＋語］素性名詞は人為性の強い，また具象的な try，get its foot などの動作動詞と統語関係をもち(v)と同じ使命を果しうる。合わせて find とも結びつく。(vii)［＋時］素性名詞は tell，announce などの発言動詞と統語関係をもちうる。(viii)［＋身体部分］を表わす素性名詞は［＋人間］と同一視され，一般の発言動詞と統語関係をもちうる。(ix)［＋事物］［＋特定抽象］［＋建物］などの素性名詞は［＋人間］の活動を背後に意識させ，発言動詞と統語関係をもちうる。

（なお詳しくは福大人文論叢「情報主語の問題」（8巻2号），「日本語にない英語の情報主語」（8－3），「日・英語に共通な情報主語」（8－4）昭和51－2を参照）